NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞に親しもう

2．学校名

福井県坂井市立丸岡中学校

3．実践者名（代表者名）

乙部愛子　阪井克典

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

選択社会　70人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞に見出しを付けよう

7．目標(狙い)

選択社会の時間で、「生きた社会」を見つめる時間を持たせる。既存の新聞記事を用い、内容や写真を理解した上で自分なりの見出しを付けることができるようにする。

8．評価の視点

内容や写真を理解した上で、工夫して自分なりの見出しを付けることができたかを評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞に親しもう」（見出し作り、新聞記事作成、4コマ漫画、HAPPY NEWS）　計5時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「見出し作り」始めから見出しを切り抜いた記事を配布し、記事の内容を読み、写真も見ながら、自分ならどのような見出しを付けるか考える。その後、短冊に見出しを書き、発表する。（1時間）
②「新聞記事を書く」学校の清掃の写真を元に、見出しと記事をワークシートに記入する。（1時間）
③「4コマ漫画から社会を考える」4コマ漫画が社会の出来事を反映して描かれていることがあることを知り、どんな出来事なのかを考える。（1時間）
④「HAPPY NEWSに応募しよう」新聞をまるごと用い、HAPPYになるような記事を探し、その理由を書く。（2時間）

（留意点）
最初の段階では、教師側から与えた記事などを活用し、次第に新聞を丸ごと活用させるようにすることで、難しく新聞をとらえないようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞への「難しい」というイメージが変わり、新聞には様々なことが書かれていることが分かったようだ。見出しや新聞記事作成は真剣に取り組んでおり、新聞を丸ごと手にとりHAPPY NEWSを探すのは好評だった。

12．成果と課題

新聞記事をまずは教師側から提示、そして徐々に生徒の手で活用することで、新聞に親しみを持ったようである。実際の記事の内容を理解することもでき、新聞に触れる機会も増えた。今後さらに、新聞に投稿するなど新聞を生徒自身が活用できるような実践を、回数を増やして取り組んでいきたい。